

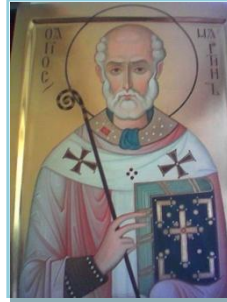
11月11日

## 主教マルチン

Sanctus Martinus Turonensis

(316~397.11.8)

～ヨーロッパ初めての聖人～



「聖マルティヌスの  
イコン」

殉教せずに列聖された初めての人物であり、ヨーロッパで初めての聖人である彼は、ゴール(ガリア:現在のフランス)の使徒と呼ばれ、フランスの保護聖人でもある。人名事典ではトゥールのマルティヌスと表記される。

彼の父はローマ軍の軍人で、父がサバリア(現在のハンガリー)に駐在しているときに生まれる。その後イタリアに戻り、パヴィーアで育つ。彼は求道者としての生活を十代前半は続けていたが、そのときから信者同様に過ごしていたと言われる。

15歳になったマルチンはローマ騎兵となり、ガリアにあるアミアンという場所で勤務する。そのアミアンにおいて、ある大雪の日にマルチンはほぼ裸の状態で見えぬふりをしながら過ぎていく中、マルチンはその場に立ち止まる。そして与える者を持たなかった彼は、着ていた軍服のマントを腰の剣を使って真っ二つに裂き、その半分を物乞いの男に渡す。道行く人たちは半分だけ残ったマントをつけたマルチンを笑ったが、彼は全く相手にしなかった。そしてその夜、彼が見た夢にキリストが出てくる。キリストは半分しかないマントを身につけ、「あの男は私だ」と言ったという。

夢を見たマルチンは18歳の復活祭の夜に受洗し、軍を離れる。その後司祭に叙階され、イタリアの各地で隠修士生活を送る。360年ごろにはガリアに行き、ヨーロッパ初の修道院をリギュジェに創設し、多くの弟子たちと共に祈りと労働と布教の日々に従事する。

彼の名声はトゥールまで届き、熱心な町の人たちは固辞するマルチンを司教に選ぶ。その後もマルチンは司教としても修道生活を続けていくのだが、その影響はベネディクトゥスまで及ぶ。

司教になっても彼の施しの心は変わらず、あるミサの前に貧しい男が訪ねてきたとき、自分の祭服を渡し平服でミサを行ったこともあるという。

彼は80歳で亡くなるまで、徒歩や舟や馬で巡回伝道をおこなっていった。(Y)

### <特禱>

信ずる者の光、魂の牧者である全能の神よ、あなたは、その言葉によってあなたの羊を養い、その模範によって彼らを導くために、しもべ、主教マルチンを公会の主教に召されました。どうかわたしたちに恵みを与え、信仰を守り、その生涯に従うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン